

どがなかな 木田市です!

大田市ふるさと情報誌

VOL.36

2017.6



「石見銀山遺跡とその文化的景観」は
2017年7月2日で
世界遺産登録10周年!!



写真甲子園連覇を目指して

表紙の写真は「写真甲子園2016」で
全国優勝した大田高校写真部が撮影した
作品です。連覇を目指して奮闘中!
また8月にはベネチア(イタリア)で作品の
展示が行われます。
応援よろしくお願いたします。



～地域との繋がりを大切に～ こだわりセレクトショップ兼ギャラリー

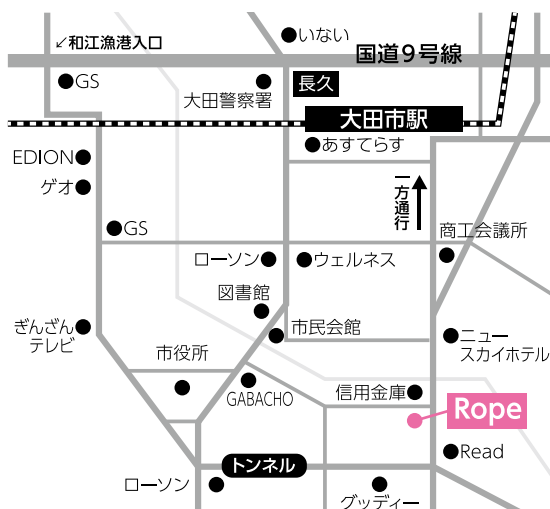
代 表 大畑 蘭
住 所 〒694-0064
鳥根県大田市大田町大田口940
大畑スタジオ内
電車 JR 大田市駅下車 徒歩10分
バス 神田橋バス停下車 道路斜め向かい
車 国道9号線交差点「和江漁港入口」又は
「長久」より南に5分

Rope

Rope

大畑 蘭さん

M A I L ranoohata@gmail.com
H P https://ranoohata-rope.jimdo.com
営業時間 10:00～18:00 (事務窓口9:00～18:00)
定休日 火曜日(事務窓口 土曜午後/日曜日)
S N S  Rope  design_rope



「Rope」に込められた思い
2017年2月、ショップ兼ギャラリー「Rope」をオープンさせた。「Rope」に込められた思いを大畑さんはいう。「デザインの仕事というのは何かを発信する側と受け取り側を繋ぐ橋渡し。それは用途に合わせて表現のスタイルを変え、自由がきくもの。まさにヒモのようなものであり、モノやヒトを繋げたいと思い、Ropeという名前にした」

開業後、生まれ育った町の活性化を手伝いたいと考えるようになる。それまでは自宅で、デザインやイラスト制作をしていたが、街中で人が賑わう場を自分の手で創り上げたいと考え、「Rope」開店に至った。

「Rope」開店までの道のり
イラストレーターでデザイナーの大畑蘭さん(本名・三谷蘭さん)。大畑さんの両親が音楽教室を営んでいることもあり、幼少期から感じたことや思いを表現する環境で育った。絵画として表現することが好きになった大畑さんは、中学時代から美術部に所属。高校生の時に開催された「中国04総体」のポスターデザインに大畑さんの作品が採用されたことで、デザイン業を故郷である大田市ですることを夢みるようになる。高校卒業後は、愛知県の芸術大学に進学し、鳥取県の映像制作会社を経て、知識・技術・感性を養い大田に帰郷し開業。



▲なるべく自分たちの手で作ったという
カジュアルな店内はどこか落ちつく

「Rope」があることで

「これまででは、デザイン関係ばかりのお客様さんと会うことが多かったが、店舗を持ったことで、今は地域のいろんな人が顔を出してくるようになったので嬉しい。お客さんからは、絵画や小物雑貨などを置いている空間があるのを楽しんでいると聞いています。また、他のセレクトショップとコラボした販売などのイベントができるようになった。コラボすることで、自分だけではできないこともできるようになる」と話す。

販売しているポーチなどの小物雑貨は、全国の作家さんが作ったこだわりの強い手作りのものが並ぶ。大田のどこにも売っていないようなものを揃えているとのこと。また、主に小学生を対象とした絵画教室も週1回開催している。

イラスト・デザインへのこだわり

本来、イラストとデザインはイラストレーターとデザイナーという別々の職種があるくらいなので、分けて考えられる。しかし、大畑さんはテーマを伝えるものを描く「イラスト」と紙面の構成をする「デザイン」の両方をこれまで培った技術によって行っている。「実際にイラストを描き、ひと手間かけることで、手仕事が入った温かみのあるデザインができる」と大畑さんはいう。

今後の目標

「クリエイターであるので、イラスト・デザインの向上に向けて精進していきたい。また、田舎にいなながらも、自分のやりたい仕事ができるという姿を見せられるようにし、都会にいないと華やかな仕事ができないという風潮をなくしていきたい。そして、今後もイラスト・デザイン、セレクトショップ運営、絵画教室の3本柱を主体としてやっていきたい」と語る。

取材を通して、大畑さんの口からは「帰郷してからたくさんの方の地域の方に協力してもらえた。これからも地域とのつながりを大切にしていきたい」など、地域や周りの方たちへの感謝の言葉を何度も話していた。大畑さんの魅力ある人柄で、今後も地域に頼られる存在であり続けてほしい。



大畑さんが描く温かみのある作品

「住みたい田舎日本」 移住体験ツアー

〜田舎暮らしを1泊2日で体験〜



伊ワミ村田製作所にて参加者で記念撮影



ムラタセイサクくんを動かしてみる

大田市では、3月11日から12日にかけて、田舎暮らしを考えている人を対象に「移住体験ツアー」を行いました。

新神戸駅発着、1泊2日の行程のツアーに5人の参加がありました。
大田市へ到着した参加者は早速、昼食会場の天草(大田町)で新鮮なお刺身やワカメ・アサリの味噌汁など



に舌鼓を打ちました。昼食後、お店を出るとまだ雪の残る三瓶山が遠くに見える、豊かな自然に参加者は心打たれているようでした。



天草での昼食

次に向かったのは、セラミックコンデンサの開発や製造を行っている株式会社伊ワミ村田製作所(左ページ参照)。ここでは、企業紹介や工場見学を行いました。



三浦さんの話に聞き入る参加者(群言堂にて)

その中でも、ムラタセイサクくん、セイコちゃんの技術に参加者の目は釘付けでした。
その後、バスで石見銀山公園まで移動。大森町の町並みを散策しながら、目的地の群言堂本店(左ページ参照)へ。群言堂スタッフでインターンの三浦さんから都会と大田の生活の違いや、大田の魅力などの話があり、ツアー参加者からも様々な質問があり、話に花が咲きました。

夕食は浜焼きバイキング「暖DAN(波根町)」で新鮮な魚介類などを楽しみました。特にサザエやアワビ、干物などが人気で「食べ過ぎちゃった」という参加者も。

ちようどりリニューアルオープン記念で石見神楽の上演があり、「大蛇」の演目がはじまると食事を忘れて楽しむ参加者もいました。

2日目は空き家見学からスタート。今回は三瓶地区の別荘地の物件やテニスコート付物件、温泉にほど近い物件など、移住後の生活を想像しながら、様々な物件を見学しました。



空き家見学の様子

その後、田舎体験施設の子ご美の里（山口町）でこんにやくづくり体験。こんにやくづくりがはじめての参加者も多く、どうやってよいのかと戸惑っていた参加者も、最後には楽しんでこんにやくを丸めてお湯に浮かべていました。



こんにやくづくり体験の様子（子ご美の里にて）

昼食は子ご美の里で収穫した野菜をたっぷり使った料理が並び、昔ながらのかまどで炊いたご飯は、おこげも程良くできていました。子ご美の里で販売されていたどぶろくを購入する参加者もあり、乾杯する場面も。食材やメニューについての質問もあり、参加者だけでなく地元の人々との交流を楽しんでいる様子でした。

昼食後、ツアーの最後に立ち寄ったのは三瓶小豆原埋没林公園。地上では何もないように見える公園も、地下へ降りると壮大な巨木群が目の前に広がります。参加者は地底にそびえる巨木群に興味津々な様子で、

その壮大なたたずまいに目を奪われていました。



埋没林に興味津々な参加者

移住体験ツアーを終え、参加者からは「また訪れてみたい」、「移住した若者ががんばっている姿に関心しました」、「友人にも広めていきたい」などの感想をいただきました。大田市では今後も、移住・定住のための様々な取り組みを行っています。

Uターン者も
たくさん
働いています!

株式会社イワミ村田製作所

昭和40年に株式会社村田製作所のグループ会社として設立。セラミックスを原料としたコンデンサなどの電子部品を生産しており、スマートフォン・携帯電話、パソコン、ゲーム機、テレビなどの家電製品、自動車等々、幅広く使用されています。

イワミ村田製作所 検索



群言堂(株式会社石見銀山生活文化研究所)

ライフスタイルブランド「群言堂」を通して、上質な素材を選び、日本の気候風土に合ったデザインを考え、心地よい暮らしを支えるものづくりをしています。また古民家を再生し宿や飲食店などに活用するほか、地元で発見された酵母菌の研究開発なども行っています。

群言堂 検索



“おおだ”の空き家情報を定住PRサイト「どがどが」に掲載中!

どがどが 検索

アムスメロンづくりに 夫婦二人三脚で挑む

殿山正記さん
裕子さん夫妻



そんなときに立ち寄った島根県のアンテナショップ兼情報コーナー「にほんばし島根館（東京）」で「ご縁の国しまね就農相談バスツアー」の話聞き、早速申し込みをすることにしました。

殿山正記さんは、3年前まで神奈川県で、油槽所の副所長として、働いていました。拘束時間が長く、夜勤もある仕事に、なかなか夫婦の時間が取れず、いつか夫婦2人で一緒に仕事をしたいと考えるようになりました。

夫婦の時間を大切にしたい



就農までの流れ（殿山さんの場合）

平成24年8月
「ご縁の国しまね」
就農相談バスツアーに参加
⇒11月に個別で再度訪問



平成25年2月～
産業体験や就農前研修で
農業の基礎を学ぶ



平成26年11月
就農



ふるさと納税のお礼の品として 「温泉津アムスメロン」を進呈中！

大田市では1万円以上のご寄附をいただいたかたへ、大田市の魅力ある特産品を進呈しています。「温泉津アムスメロン」も取り扱っておりますので、この機会にぜひ。

ふるさとチョイス 大田市



トロ箱栽培とは？

漁業者が魚を入れる容器（通称：トロ箱）にヤシガラなどの培地を敷き詰め、液肥を流して栽培する方法。



就農相談
バスツアー

就農相談バスツアーをきっかけに、全国的にも珍しいアムスメロンの「トロ箱栽培」に興味をもちました。何よりも地元農家や受入先農家の方々の人柄の良さに心惹かれていきます。

「サポートはあっても実際に育てて出荷してくるのは自分たち。このときはまだ自分たちに農業ができるか不安がありました」と話す正記さんは、この3ヵ月後に再度、大田市を訪れます。

訪れた時期が11月ということもあり、レタスの定植や柿の収穫を体験しました。この体験を通じて、不安だった気持ちから、「農業をやってみよう」という気持ちが強くなり、移住を決断しました。

現在、殿山さん夫妻は春と秋のアムスメロン、冬にはレタスをつくっています。

メロンづくり
悪戦苦闘

今年が3年目になる殿山さんのアムスメロンづくり。

最初の年は、うまくつくることができ、つくることが楽しさを実感しました。昨年は大きな玉をつくろうと水をあげすぎてしまい、納得のいかない結果となりました。

今年目標は水の量をうまく調整して、個数を多くつくることと正記さんは話します。一緒に仕事を出来る喜びを感じながら、夫婦2人のアムスメロンづくりはこれからも続きます。

大田に住んでみて

殿山さん夫妻が大田に住んでみた感想を聞いてみました。都会の生活と比べてよかった点は、念願だった家庭菜園ができること、猫が飼えたこととうれしそくに話していました。驚いた点は、除雪車をはじめ見たこと、草刈機が1人1台必要なこと、道路の除草がしっかりされていること。

不満なことは、トイレが水洗化になっていないこと、買い物に不便なこと。買物が不便なことについては、通販をうまく利用しながら、暮らしているそうです。

大田に移住してよかったかの問いに、笑顔で「よかったです」と答える殿山さん夫妻の幸せそうな顔が忘れられません。



メロンの手入れをする殿山さん



殿山さん夫妻も加盟する「温泉津町施設園芸組合メロン部会認証グループ」は、島根県内で初めてメロン産地で『美味しまね認証』を取得！

美味しまね認証制度とは？
「安全でおいしい」を兼ね備えた産品を生産する生産者・生産方法を島根県知事が認証する制度（島根県版GAP認証）



※農林水産省ガイドライン準拠

温泉津町施設園芸組合メロン部会
大田市温泉津町で30年以上続くアムスメロン生産者により組織されたグループ。都会からのIターン就農者の受け入れ等、生産者が中心となって活発に活動を行っています。

温泉津町施設園芸組合メロン部会
認証グループ



シリーズ 石見銀山^{③⑥}

世界遺産登録10周年を迎えて -30周年と60周年-

平成19年(2007)7月、石見銀山遺跡が日本では14番目、鉱山遺跡としてはアジアで初めての世界遺産に登録されました。それから10年、世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」は、官民が協働してその価値を守り、継承しています。今年、登録10周年を迎えた石見銀山ですが、鉱山町として栄え、その価値を構成する資産の一つとして中核を担う「大森銀山の町並み」にとっては、節目の年といえるものが他にもあることをご存知でしょうか？

今から遡ること60年前の昭和32年(1957)、石見銀山遺跡の文化財としての価値がそれほど認識されていない中、「大森町文化財保存会」が設立されました。地域の文化財である石見銀山遺跡を後世に伝えることを目的に発足した同会は、当時の大森町全戸の住民が会員となり、調査活動・保全活動を継続して行ってきました。遺跡の帳簿作成にはじまり、古文書調査や案内板の設置、遺跡の清掃など、その活動は多岐にわたったそうです。そうした住民の方々を中心とした地道な努力が行政を動かし、本格的な調査が行われました。そして石見銀山遺跡は昭和44年(1969)に国史跡に指定され、町並み保存、世界遺産登録へと繋がっていきます。

昭和49年(1974)には、市による町並み保存対策調査が行われ、昭和62年(1987)に、歴史的な町並みが高く評価されて大森の町並みは「大森銀山重要伝統的建造物群保存地区」に選定されました。それが今から30年前のことです。

大森町にとって、今年は大森町文化財保存会設立60周年であり、重要伝統的建造物群保存地区選定30周年、そして世界遺産登録10周年という、3つの節目が重なる年となったのです。世界遺産登録10周年の気運が各所で高まりをみせていますが、その根底を支えるのは住民の方々の誇りであり、地域の様々な活動です。それが今でも連続として続いているということも多く皆さんに感じていただき、登録記念日の7月2日を迎えていただきたいと思えます。



史跡内での清掃活動

●お問い合わせ先

大田市教育委員会 教育部 石見銀山課
☎0854-83-8133



島根県大田市は、ユネスコの「世界平和と人権尊重」の精神に基づき、世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」の保全と活用をすすめています。



おおだ空き家情報

平成 29 年 6 月 9 日現在

貸したい!
売りたい!
空き家情報募集中!

空き家情報はおおだの定住PRサイト「どがどが」でご覧いただくことができます。
おおだ定住支援センター<大田市役所定住推進課内☎0854-83-8029>にご相談ください。



三瓶町志学

賃貸:2.1万円/月

木造二階建ての3LDK。
浴室はありますが近くの温泉施設の利用もお勧め。

【物件番号:140025】



温泉津町福光

売買:400万円

和洋室含めて12部屋あります。
JR福光駅から徒歩で10分程度の立地です。

【物件番号:160016】

「石見銀山遺跡とその文化的景観」は 2017年7月2日で世界遺産登録10周年!

スペシャルイベント

記念式典

7月2日(日)
会場：あすてらす
■お問い合わせ先
大田市役所石見銀山課
☎0854-83-8132

オペラ「石見銀山」-500年の悠久の時をこえて-

世界初!! 石見神楽とオペラの協奏
主演：オペラユニット「LEGEND」
【大田公演】7月2日(日) 会場：大田市民会館
【東京公演】9月25日(月) 会場：新国立劇場

■お問い合わせ先
オペラ「石見銀山」実行委員会
☎0854-82-0170

10周年観光キャンペーンオープニングイベント

7月2日(日) 会場：石見銀山世界遺産センター ■お問い合わせ先 大田市役所観光振興課 ☎0854-88-9237

7月・8月

海から観る もうひとつの世界遺産

7月22日(土)、29日(土) 会場：仁摩町馬路～温泉津町
鞆ヶ浦～古龍の遊覧、カナディアンカヌー体験
■お問い合わせ先 B&G 琴ヶ浜海洋クラブ ☎0854-88-4205

夏休み特別ワークショップ 「レジン展」

8月4日(金)～6日(日) 会場：仁摩サンドミュージアム
様々なかたちのアクリルで、自分だけのオリジナルアクセサリーをつくろう (対象：小学生以上)
■お問い合わせ先 (公財) シルバーランド振興事業団 ☎0854-88-3601

大漁旗たなびく 漁船団に乗ろう

8月6日(日) 会場：仁摩町馬路～温泉津町
鞆ヶ浦から温泉津海岸を漁船で遊覧。海上からの夕日観覧もあります。
■お問い合わせ先 馬路城上興産 ☎0854-88-2617

大田町本通り 土曜夜市

8月12日(土) 会場：グッディー大田店ほか
二十数年ぶりに「土曜夜市」が復活! キッズダンス、アマチュアバンドライブ、大道芸、屋台、特産品販売
■お問い合わせ先 大田町本通商店会 ☎0854-82-9239

9月～11月

世界遺産の町・ 温泉津を楽しもう!

9月23日(土)、24日(日)、10月28日(土)、29日(日) 会場：温泉津温泉街
アコーディオン生演奏、歌声喫茶、地元産直市
■お問い合わせ先 薬師湯 ☎0855-65-2020

さんベクコの実栽培 プロジェクトキックオフ ～クコの実のお話と薬膳教室～

10月15日(日) 会場：三瓶町
「さんベクコ」を使った薬膳スイーツの試食と薬膳料理教室
■お問い合わせ先 さんベ女子会 ☎0854-83-2053

世界遺産サミット

11月10日(金) 会場：あすてらす
世界遺産のある自治体が集まって、保全と活用について議論します
■お問い合わせ先 大田市役所観光振興課 ☎0854-88-9237

※日程・内容は変更になる場合があります

詳しいイベント情報は



ふるさと納税

大田市への応援の気持ちが全国から集まっています!!

「ふるさと納税」は、「ふるさと=自分が貢献したいと思う自治体」へ寄附する制度です。寄附先は、出身地以外でもかまいません。「お世話になった自治体」や「応援したい自治体」など、自由に選ぶことができます。大田市にも、この制度を通じて全国からたくさんの応援の寄附が寄せられています。

平成28年度寄附報告

寄附目的	金額(円)
■定住促進	66,285,612円
■参画と協働によるまちづくり	53,334,887円
■石見銀山のまちづくり	72,553,502円
■芸術・文化・スポーツの振興	58,734,400円
合 計	250,908,401円

ありがとうございます
ございました



寄附の使い道が
選択できます

ふるさと納税制度を導入している多くの自治体で、寄附申込みの際に、使い道を選択できます。

大田市では、①定住促進、②協働のまちづくり、③石見銀山のまちづくり、④芸術・文化・スポーツの振興の4項目を設けて寄附を受け付けています。

昨年度は
2億5千万円以上の
寄附がありました

昨年度に、全国の寄附者から本市へ寄せられたふるさと納税寄附金は、16362件で、総額2億5090万8401円でした(上図参照)。寄附金は「大田市まちづくり推進基金」に積み立て、寄附目的に沿った事業に活用します。

【お問い合わせ先】
大田市役所定住推進課
☎0854-83-8029

しまねUターン|ターンフェア・相談会に大田市も参加します!

※日程や場所の変更がある場合もあります。(平成29年度大田市参加予定)

情報収集だけでもOK! 仕事、住まい、地域のことなどの相談に応じます!
大田市内に活用できる空き家をお持ちのかたからの相談もお待ちしております!

東京

- ★H29. 7.23(日) 東京交通会館
- ★H29.11.26(日) 東京国際フォーラム
- ★H30. 1.14(日) 東京交通会館

大阪

- ★H29.6.11(日) 梅田スカイビル
- ★H29.9.24(日) 梅田グランフロント
- ★H30.2.18(日) 梅田スカイビル

広島

- ★H30.1.27(土) 基町クレド

【お問い合わせ先】 大田市役所定住推進課 ☎0854-83-8029

平成29年度 大田市の移住・定住支援の制度の一部をご紹介します！

定住奨励事業

UIターンで住宅を取得した場合に助成！

UIターンで大田市に定住されるかたが住宅を新築または中古住宅を購入した場合に助成を行います！

助成額 (基本額) 建物価格の20% (上限20万円)
(加算額) 子ども加算：18歳以下の子ども1人につき3万円を加算
若者加算：世帯主が45歳未満の場合、5万円を加算

※転入日より1年未満のかたが対象です。

※平成29年4月1日より、賃貸住宅へ入居する場合は対象外となりました。



多世代同居近居支援事業

多世代(親・子・孫)の同居・近居を応援！

大田市内で親・子・孫の多世代で同居・近居を始め、3年以上継続する見込みの世帯に助成を行います！

●孫は小学生以下(出産予定である場合も対象) ●同居日等から1年以内

※近居とは…直線で2キロメートル以内にある住宅

助成額 4万円/世帯 ※子のいずれかがUIターン者の場合2万円を加算

※大田市定住奨励事業、大田市空き家活用促進事業、

新婚さん住まい応援事業の対象となったかたのいる世帯は対象とはなりません。

※平成29年4月1日より、新婚さん(婚姻1年未満)の場合は対象外となりました。

【お問い合わせ先】大田市役所定住推進課(☎0854-83-8029)



保育士さんいらっしゃい奨励金交付事業

UIターンで市内の保育施設等で就労した場合に助成！

市外から大田市に転入し、新規に市内の認可保育所、地域型保育所または認可外保育施設に就労する保育士に奨励金20万円を交付します。(1人1回)

※5年以内で転出、または保育士を辞めた場合は奨励金を返還していただきます。

※学生は住所変更を伴わなかった場合も対象とします。

【お問い合わせ先】大田市役所子育て支援課(☎0854-83-8149)



ふるさと大田創業支援事業

賑わい創出や商業活性化につながる起業・創業・事業承継を応援！

大田市内で空き店舗等を利用して小売業・飲食業・サービス業等を起業・創業をされる方や、事業承継される方に対して、その費用の一部を補助します。

補助対象事業：①改修費、建築費、建物取得費、備品購入費 ②家賃、広告宣伝費

補助率：①2分の1以内 ②3分の2以内(家賃は原則1年間)

※①・②合わせて150万円(家賃は月額8万3千円が上限)

※申請には商工会議所・商工会の推薦が必要です。必ず事前にご相談ください。

【お問い合わせ先】大田市役所産業企画課(☎0854-83-8073)



すべての事業について予算の範囲内での助成となります。詳細はお問い合わせください。



道行き



道行き



田植囃子



代なるし

ふるさと
は
今

早乙女華やか 時代絵巻 「水上町花田植」

水上町に室町時代から伝わる「水上町花田植」
雲一つない五月晴れのもと、5月14日に同町内の水田で行われました!!

この花田植は400年以上の歴史があり、市の無形民俗文化財に指定されています。五穀豊穡、無病息災を願うもので、田の神様への原始信仰の祭礼儀式から生まれたと言われています。

戦後一時期中断していましたが、昭和62年に地元の青年団が中心となって復活。以来、ほぼ4年に一度、町民で組織する実行委員会が中心となって続けられています。

本来であれば来年の実施となるとところ、今年は石見銀山遺跡が世界遺産登録10周年を迎える記念の年であることから、1年早めて開催されました。

はじめに町内の水上神社で安全を祈願したのち、2頭の飾り牛を先頭に、太鼓、笛などの囃子方や早乙女が行列を作って進む「道行き」で会場に到着しました。

約500人の見物客が見守る中、田の神様を迎える「田神おろし」を行った後、飾り牛が「代なるし」(代かき)を行い、いよいよ田植えとなりました。

町内外から参加した早乙女姿の女性31人が水田に入って

横一列に並び、地元の小学生や大人たちが打ち鳴らす太鼓や笛などの田植囃子の調子に合わせ、約10アールの水田に苗を丁寧に植え付けていきました。

この伝統行事を守ろうと、高山小学校の児童や大田第三中学校の生徒も大勢参加。また今年は、邇摩高等学校の女子生徒11人が早乙女役として、男子生徒7人が用具調達係として参加し、花田植を盛り上げてくれました。

水上町郷土芸能保存会長を務める実行委員長の田中光治さんは、「町民の皆さんはじめ、邇摩高校の生徒さんなど多くの若者の参加があり、にぎやかに花田植を実施することができた。大切な伝統行事として長く継承していきたい」と話してくれました。

今回は4年後に開催予定です。これからも若い世代が参加し、この伝統が長く継承されることを願っています。

【お問い合わせ先】
水上まちづくりセンター

☎0854-83-0023

この情報誌は定住促進を目的に発行しています。

発行/大田市役所政策企画部定住推進課 ☎:0854-83-8029 FAX:0854-82-5885

〒694-0064 島根県大田市大田町大田口 1111 番地 E-mail: o-tiiki@iwamigin.jp <http://www.city.ohda.lg.jp/>
おおだの定住PRサイト「どがどが」 <http://www.teiju-ohda.jp/> どがどが 検索

